

Forward CPEC-UH



第 005 号

■編集：
兵庫県立大学淡路緑環境キャンパス
(緑環境景観マネジメント研究科)
MYU-UH 大学間連携事業推進室

兵庫県立大学では、宮城大学との大学間連携共同教育推進事業「コミュニティ・プランナー育成のための実践的教育課程の構築」について、大学本部と神戸商科キャンパスの経営学部、明石看護キャンパスの看護学部、姫路環境人間キャンパスの環境人間学部、連携事業推進室のある淡路緑景観キャンパスの緑環境景観マネジメント研究科の4学部・研究科が共同して事業を進めています。宮城大学も大和キャンパス(仙台市北の大和町)の事業構想学部と看護学部、太白キャンパス(仙台市南部の太白区)の食産業学部の3学部が共同して進めており、太白キャンパスに事業企画推進室が設置されています。

こうした各キャンパスにまたがって、ひとつの事業を進めていくためには、それぞれの意思疎通・意見集約が重要な鍵となりますので、実際にはあまり日常的な交流が乏しい各キャンパスの様子をレポートします。

■明石看護キャンパス訪問記

2013年4月17日水曜に明石看護キャンパスを訪問しました。安藤忠雄さん設計の建物や環境を拝見し、超多忙な看護学部長にお目にかかることをできる機会を楽しみに訪問しました。

明石駅からバスでがんセンター前で降りれば、隣なのですから建物はわかるのですが、さて玄関がどこか？がよくわからない。

(写真の丸い所の左の階段上が入口でした)



塩見さんの研究室で、牛尾さんも来られて看護学部の概要をお聞きし、とても素晴らしい環境(天井高い!窓からの緑多い!)の学部長室で片田さん、山本さんに迎えていただき、コミュニティ・プランナー育成及び地域と大学との連携(COCなど)についての意見交換をしました。

小林郁雄(大学間連携事業推進室)



■右から片田範子看護学部長、山本あい子地域ケア開発研究所長、塩見美抄准教授、牛尾裕子准教授(130417 看護学部長室にて)



■緑の中の明石看護キャンパス看護学部(130417)

■市民ボランティア班の活動報告

(平成 24 年度活動報告書より)

平田富士男(緑環境景観マネジメント研究科教授・
CPEC ボランティア育成プログラム担当)

「市民向け花と緑のまちづくりボランティア養成講座」を3月29日、宮城大学にて開催した。

淡路景観園芸学校で開催してきた「まちづくりガーデナー・体験コース」を半日に圧縮したうえで、阪神・淡路大震災の被災経験、復興まちづくり経験、そこでの花や緑の活用経験を伝えるようなプログラムを想定し、宮城大学にてそれを開催するとして、プログラムの検討を行った。検討にあたっては、(特)アルファグリーンネット (AGN) 役員にも参加いただいた。

AGN 会員の中から阪神・淡路大震災の被災経験、およびそこからの復興まちづくりに地域のリーダー的役割で関わった経験を持ち、その際、花や緑を活用したまちづくり活動で大きな成果を上げた人をパネラーとして選抜してもらった。また、パネラーへの説明、講座当日のパネラーのアテンドなどを一括して AGN に委託した。

宮城大学と運営の調整を行い、会場確保、学生ボランティア募集、受講生募集等の依頼を行った。

●講座の開催

以下の流れで講座を実施した。(受講生 14 名)

- ・司会 (宮城大学学生)
- ・開会あいさつ・趣旨説明 (宮城大学森本教授)
- ・花と緑のまちづくり活動についてのガイダンス (平田教授)
- ・阪神・淡路大震災被災経験者による「まちの復興における花と緑のまちづくり活動展開経験のリレートーク」 (進行: 平田教授)
- ・参加者による簡単な園芸作品制作活動 (林准教授)。

今回の講座では学生の参画による講座運営を当初から目指し、宮城大学の学生にボランティア参加を募集したところ、10人の応募があったので、その学生の皆さんとの打合せを経て、会場準備、司会、受付、



■学生と AGN 会員による実習材料準備

材料準備、受講生サポートなどの役割分担を決め、それによるスムーズな運営が実現した。

当日の受講された方のなかには、仮設住宅にお住まいの方もおられたが、「被災以降、ずっと沈んだ気持ちだったけれど、今日の阪神・淡路大震災の被災から花と緑に勇気づけられてきた経験談をお聞きして、自分も花と緑を育てることによって新しい一歩が踏み出せそうな気持ちになった。」といったお話を涙ながらにしてくださり、会場全体の涙を誘いながらも、花と緑の持つ力を皆さんとともに実感することとなった。そして、次年度以降もこのような取り組みを継続することの重要性を一同再認識した。



そのあとの「花のお弁当箱づくり」では、みなさん生き生きと取り組まれ、ボランティアで運営に参加してくれた学生のみなさんといっしょに、たくさんの作品を作り上げた。



平成 25 年度は、学生の皆さんもいっしょになってさらに企画を充実させ、屋外実習プログラムを入れて、かつ学生さん自身が主体的に運営していってもらえるようなプログラムで実施していければ、と考えている。

■共同教育基盤整備班の実績報告

(平成24年度活動報告書より)

美濃伸之(緑環境景観マネジメント研究科教授)

岩崎哲也(同 准教授)

(CPEC 共同教育基盤整備検討担当)

●ホームページによる関連情報の発信

大学間連携事業を幅広く周知するために、緑環境景観マネジメント研究科ホームページ内に専用のバナーを作成し、連携事業に関する情報発信を実施した。

掲載情報としては、事業の概要、活動広報誌(CPEC-UH)、活動レポートとしている。これ以外にも、協議会や関連する話題、マスコミ報道については、研究科ホームページ本体においても随時に情報発信を行ったが、活動報告については、研究科他活動と明確に区別できるよう、#マークをつける工夫を施した。



2013年4月1日 大学間連携事業のページに活動広報誌の003号と004号をアップしました



■研究科ページ内に作成した連携事業コンテンツ

平成25年2月末には宮城大学のほうで連携事業の公式ホームページを作成したが、当該ページを宮城大学と兵庫県立大学とで協働で運用していく体制、コンテンツの棲み分け、連携事業専用のロゴなどを議論していく予定である。

●遠隔講義システム・メーリングリスト等

遠隔講義システムについては、県立大学内部のシステムと新たに購入するものの2つのパターンについて検討した。

また、大学間連携事業のメンバー間の情報共有を図るため、cpec-uh@awaji.ac.jp というメーリングリストを作成して運用を開始した。ただし、当該メーリングリストは兵庫県立大学内メンバーでのみ運用している。また、グループウェアについては、サイボウズライブの試験的運用を淡路キャンパスで開始した。

●広報用グッズ、ホームページ用デジタルコンテンツの作成

大学間連携事業にかかる広報用グッズを作成した。具体的にはのぼり3種類、クリアフォルダ、ジャンパーである。

また、前述したホームページのためのデジタルコンテンツを作成し一部をアップした。



■作成した広報グッズとデジタルコンテンツの例

【これからの予定】

●連携先市町訪問

日時・6月7日（金曜）～8日（土曜）

場所・宮城県気仙沼市・南三陸町ほか、宮城大学

参加予定者・高坂副学長、太田副学長、藤原事務局長、小林室長

・昨年度2月14日～15日に内陸部の連携先である白石市、大崎市、蔵王町、宮城蔵王観光を訪問（高坂副学長、池田経営学部長、菅野学務部長、小林室長が宮城大学の蜂谷副参事、伊佐研究員に同行）して、事業連携先挨拶を兼ねて訪問した。今回は沿岸部の連携先へ、宮城大学の森山副学長・蜂谷副参事に同行してもらって訪問する。

●第3回両大学合同会議（カリキュラム準備委員会）

日時・6月10日（月曜）09:00～12:00

場所・宮城大学太白キャンパス

・5月9日木曜午後に、兵庫県庁別館において、第2回両大学合同会議に引き続き、来年度から宮城大学で試行されるカリキュラム構成の具体的検討を行う。

・次回は7月予定

（9月予定の協議会での決定に向けて）。

【連携事業推進室から】

■平成24年度の実績報告

4月9日付けで「平成24年度大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）実績報告書」を、文部科学省に宮城大学から提出した。

補助事業の実績として、推進事務局設置、検討委員会や3回のCPEC設立準備委員会開催など8項目、また具体的な成果として、効率的な事業推進体制整備、共同教育体制への共通認識、キックオフシンポジウムなどを通じた共通理解など8項目を報告した。

兵庫県立大学への交付決定額26,435千円の補助金のうち、補助事業に要した補助対象経費として21,504,355円を大学改革推進等補助金の収支決算書として、提出いたしました。あわせて補助対象経費調書、詳細の支出簿、設備備品調書も作成した。

■平成25年度の交付申請

文部科学省あてに、2月25日期限の平成25年度補助金調書（案）を宮城大学から提出した。文科省からの確認・補正に応じて、修正調書を3月18日に提出



■宮城大学太白キャンパス（130208）

し、3月29日付けで交付内定があった。

選定取組の概要は24年度と同様で、実践的人材育成を行い、地域再生サイクルの原動力となり、地域社会を牽引する問題解決型のリーダー＝コミュニティ・プランナーを育成する教育課程を構築することを目的にする。

事業の目的・必要性も昨年同様の3項目で、

■地域が求める「コミュニティづくり」に貢献できる人材＝コミュニティ・プランナーの育成

■二大学の強みを活かした新たな地域連携型教育

■地域と大学との連携強化（COC機能の強化）と教育の高度化

本年度の目的は、「（仮称）コミュニティ・プランナー教育センター（CPEC）」設立のための準備委員会による検討、及び事業広報のためのキックオフイベントの開催、交流プログラムの試行等を実施し、事業推進体制の充実、プログラムの基本方針の策定を図ることである。

また、25年度の補助事業実施計画は、3分野での勉強会、遠隔授業システム導入・試験的活用など11項目と、事業内容9項目が予定されている。

補助対象経費の兵庫県立大学分は28,685千円（総額は57,331千円）で、内訳は以下の通りである。

物品費	3,256千円
人件費・謝金	11,983
旅費	6,916
その他	6,530
合計	28,685千円

兵庫県立大学淡路緑景観キャンパス（緑環境景観マネジメント研究科） 大学間連携事業推進室

UNIVERSITY of HYOGO Promotion Office for Inter-University Collaborative Program

〒656-1726 兵庫県淡路市野島常盤 954-2 Phone & Facsimile 0799-82-3126

Hyogo-ken Awaji-shi Nojimatokiwa 954-2

E-mail suishinshitsu@awaji.ac.jp